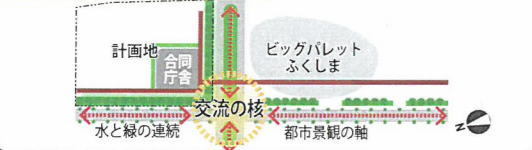


郡山の緑豊かな街並みをつくる『丘のような合同庁舎』

私たちは磐梯山や安達太良山を望む文化交流拠点としての郡山南拠点地区=シビックゾーンの中心に、福島・郡山の地勢を取り入れビッグパレットとともに「交流の核」となる「丘のような合同庁舎」によって県民と一緒に永く生き続ける街並みをつくりたい。

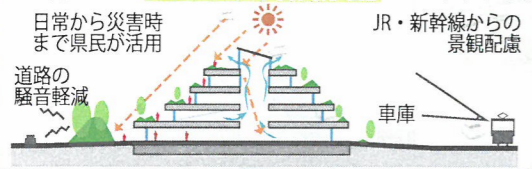
① 都市の風景を創る『交流の核』

合同庁舎を南西に配置し、ビッグパレットとの間を『交流の核』とすることで、郡山南拠点地区のシビックゾーンに街並みをつくりたい。



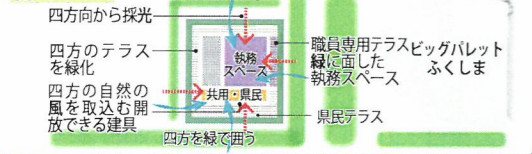
② 県民に開かれた『丘のような合同庁舎』

福島の中心に位置する郡山に日常的に県民が利用できる開かれた『丘のような合同庁舎』をつくりたい。



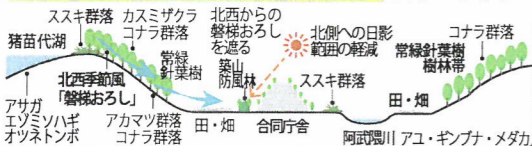
③ 四周から風・光・緑を取り入れるテラス

四周まわったテラスは、緑に囲まれ、心地よい光・風が吹き抜ける快適で健康的に配慮した県民・執務スペースをつくりたい。



④ 福島の地勢を熟知した施設計画

西側の緑は冬季の「磐梯おろし」に対して、防風林として機能します。積雪や凍結等、福島・郡山の植生や地勢を熟知した施設計画を行います。



通常時展望公園・災害時ヘリポート防災活動スペース

通常は県民も利用できる屋上広場は、災害時の避難、防災活動、ヘリポートとして利用

多目的キャノピー

通常時：駐車場から雨や雪をしのぐ歩行者ルート、駐輪場
イベント時：駐車場を利用したイベントのアリーナ席
災害時：底にタープ掛等を装備し、屋根付防災支援活動スペースとして利用

県民利用も想定した会議室エリア

県民利用も想定し、庁舎執務機能とセキュリティ区分した運用可能な会議室エリア

駐車場への日影が小さくなるセットバック

冬季・融雪・凍結対策として駐車場への日影を考慮し段状のセットバック形状とします。

磐梯山・安達太良山への眺望

屋上や段状のテラスからは磐梯山・安達太良山への眺望が広がります。

西側の築山・防風林

エントランスや多目的キャノピー前方に冬季の北西からの季節風「磐梯おろし」を遮る築山・防風林を設けます。

県民エリアを通じて屋上までのアクセス

職員エリアのテラスを通らず、県民エリアの屋外階段で屋上までアクセスが可能です。

郡山南地区の『交流の核』

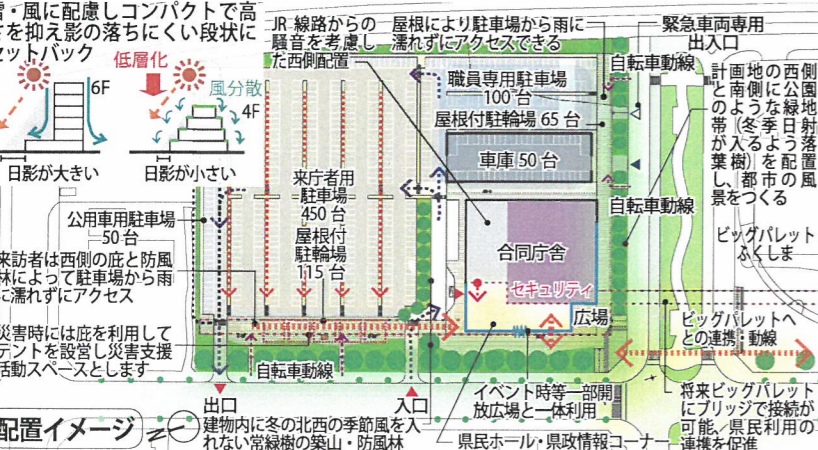
郡山南拠点地区・シビックゾーンの中心の交差点を『交流の核』として広場を設けます。

計画地の利用のイメージ

1 (1) 県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保 県民が日常的に訪れ利用しやすく、県職員が健康で安心・安全に働ける環境をつくりたい

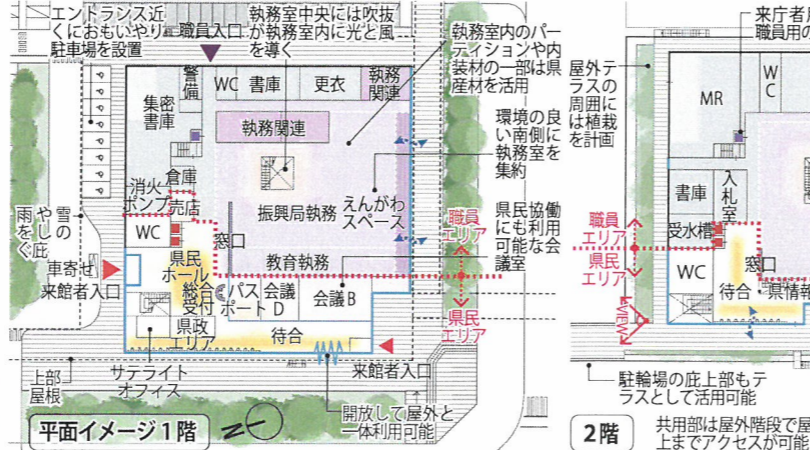
1-1. 県民も利用できるビッグパレットふくしまと連携した施設

- 福島の中心でありビッグパレットふくしまの隣という場所性から、日常的にビッグパレットと連携した運用を想定し敷地南側に配置します。
- 計画地西側に駐車場・駐輪場と庁舎をつなぐ庇を通し、雨や雪に濡れずに庁舎へアクセスできる計画とします。
- 自動車と自転車および歩行者は歩者分離を徹底します。



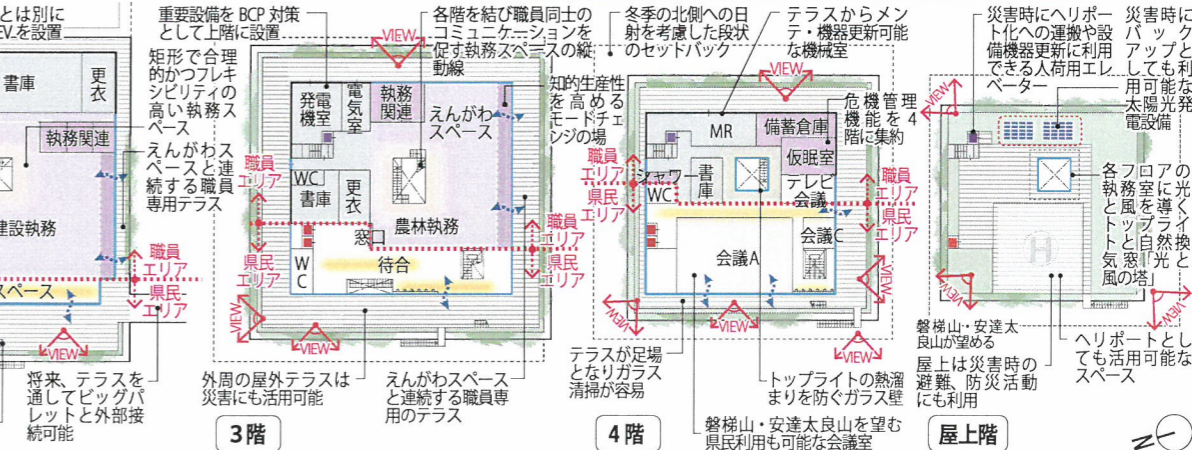
1-2. 県民が利用しやすいコンパクトで明快なフロア構成

- 県民の利便性に配慮し、同部門・同一フロアに配置した明快なフロア構成とします。
- 見通しの良い共用空間で利用者が行きたい場所がすぐ分かる計画とします。
- 1階に県民訪問の多い振興局執務室、教育執務室を配置します。
- 県民の待合となるスペースには、県民ホール、県政エリアを設け、県情報を発信します。
- 県民と職員エリアを明確に分けることでセキュリティの高い平面計画とします。



1-3. 県職員が県民に誇れる快適で健康になる執務環境をつくる

- 四面テラスの緑に囲まれトップライトからの自然光に溢れる快適な執務スペース。
- テラスと吹抜を通る自然換気による省エネ・機能的で快適な空間とします。
- 外周のテラスは県民が集まる公園として登れる計画としつつ、県職員の専用のテラスを設け、職員もリフレッシュできる環境を整備します。
- 整形で耐力壁がなく部署変更・機能変更に対応できる計画とします。



「光と風の塔」

トップライトと中央の吹抜により各階の執務空間の内部に光を導きます。煙突効果によって南側の縁側スペースから執務室内の吹抜けへ自然の風を導きます。

太陽光発電パネルの設置

災害時バックアップとしても利用可能な太陽光発電設備

JR・新幹線からの景観に配慮

線路側からの景観を考慮し裏面感のない外観デザイン

危機管理機能を4階に集約

災害対策地方本部となる会議室、サポート諸室を水害等の被害の恐れのない4階に集約

線路からの騒音を遮る車庫配置

庇とテラスの緑に囲まれた快適な執務環境

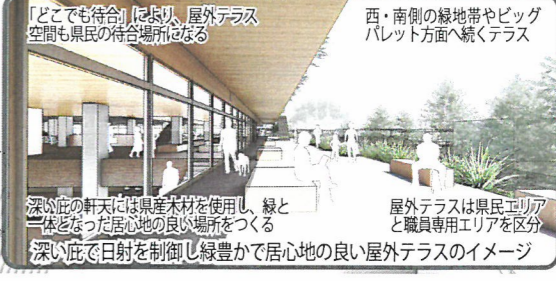
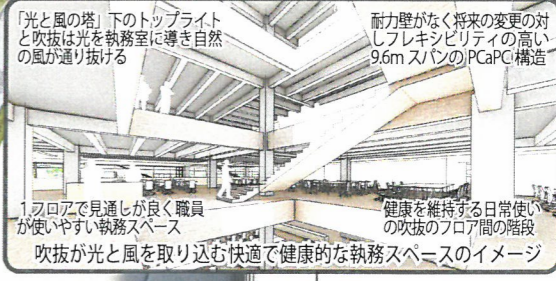
環境の良い南側に執務室を集約して配置します。庇によって直射日光を遮り、テラスには緑を配置し、職員が快適で健康的に働ける環境をつくりたい。

職員専用の「リフレッシュテラス」と「えんがわスペース」

テラス部分は県民エリアと職員エリアで区分しセキュリティを確保します。「えんがわスペース」や「リフレッシュテラス」では職員がモードチェンジしながら働くことを促します。

将来ビッグパレットとの接続が可能

将来ビッグパレットとのさらなる連携強化の場合、テラスを延長しブリッジ接続を想定可能な計画とします。



仕上げに県産木材等を使用した親しみやすくぬくもりのある福島らしい空間

福島県の緑と西日を遮る緑地帯に面した緑豊かな環境

総合案内から各フロアの部門への分かり易い動線計画

ビッグパレットへのルートに面した県情報発信の場所

エントランスに面した吹抜と県民ホール・県政情報コーナーのイメージ

落下による二次被害の防止対策としての無天井化

空調・照明を自動制御する「えんがわスペース」

居住域への床放射冷却空調

職員専用のリフレッシュテラス

一体的なえんがわスペースと屋外テラス快適な執務スペースのイメージ

「光と風の塔」下のトップライトと吹抜は光を執務室に導き自然の風が通り抜ける

耐力壁がなく将来の変更の対しフレキシビリティの高い9.6mスパンのPCAPC構造

1フロアで見通しが良く職員が使いやすい執務スペース

健康を維持する日常使いの吹抜フロア間の階段

吹抜が光と風を取り込む快適で健康的な執務スペースのイメージ

「どこでも待合」に限り、屋外テラス空間も県民の待合場となる

西・南側の緑地帯やビッグパレット方面へ続くテラス

深い庇の軒下には県産木材を使用し、緑と一体となった居心地の良い場所をつくる

屋外テラスは県民エリアと職員専用エリアを区分

深い庇で日射を制御し緑豊かで居心地の良い屋外テラスのイメージ

配置イメージ

建物内に冬の北西の季節風を入れない常緑樹の築山・防風林

平面イメージ1階

2階

3階

4階

屋上階

山並みの風景と呼応する合同庁舎

【合同庁舎】 福島の「行政」の拠点
災害時には司令塔として活躍

高さをビッグパレット
とそろえ、シビックゾ
ンの街並み形成に配慮

将来的にビッグパレ
ットと接続する動線をつ
くことも可能

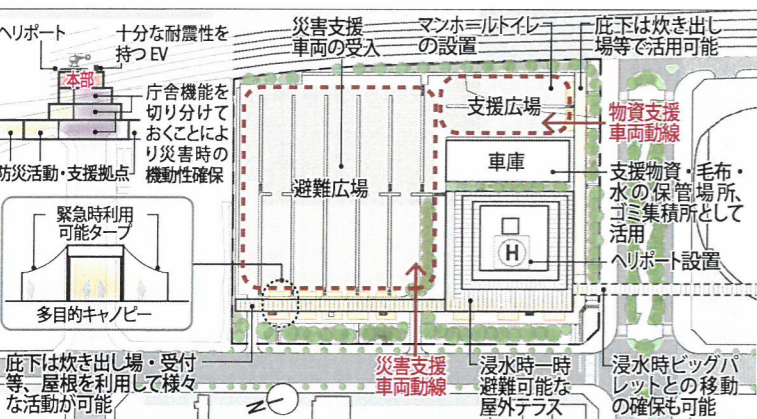
雨や雪に濡れない庇
災害時には災害支援ス
ペースとしても活用可能

西側風景イメージ

(2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方

2 災害対策地方本部としての機動性と防災支援拠点としての継続性の両立、ビッグパレットと連携した災害支援活動を想定します

2-1. 日常の必須機能が災害対策活動に最大限活かされる BCP (事業継続計画) 合同庁舎



災害対策地方本部としての危機管理機能を安全性の高い4階に集約して執務室と明確に区分することで的確な指示・情報発信を行えるようにします。
日常的に利用する地下やテラスは災害時には災害活動・支援拠点として機能します。
敷地全体が災害対策拠点として機能しビッグパレットや周辺地域と連携可能な計画とします。

2-2. 備蓄燃料を節約して長期復旧活動ローエネルギーモード

時間経過	4階：災害対策地方本部 災害対策の指令拠点	1階：災害対応支援拠点
震災発生時	建物の安全性確保：免震構造・高強度躯体・天井吊設備の最小化・家具転落防止 インフラ確保対応：電気・発電機室の上層設置・非常用発電機・雨水貯留	・県民一時避難スペース(1Fホール、ビッグパレット)・救援物資配布テント設置 ・救援物資一時支給対応(防災広場・駐車場)
災害発生直後	・災害対策本部設置・本庁、各支所、各避難所とのネットワーク構築・災害情報収集・発信・緊急車両等の受入	・安否情報提示(1F待合エリア)・炊出し支援(防災広場)・救援物資配布テント設置(防災広場・駐車場)
発生後～3日程度	・災害情報収集 ・泊り込み職員対応、仮眠室、シャワー室、(各階えんがわスペースも活用)	・安否情報提示(1F待合エリア)・炊出し支援(防災広場)・救援物資配布テント設置(防災広場・駐車場)
3日～1週間程度	・応接者待機・休憩スペース(1F会議室B)	・応援者活動拠点設置(4F会議室)・救援物資集配送対応(車庫)・ボランティア受入対応(1F待合/ビッグパレット)・ボランティア待機スペース(ビッグパレット)
1～3週間程度		・被害者自立支援窓口設置(1F県民エリア) ・仮設住宅・被災証明・帰宅支援等
3週間～3ヶ月程度	継続 通常一般業務	継続

2-3. 施設全体が災害拠点となる構造

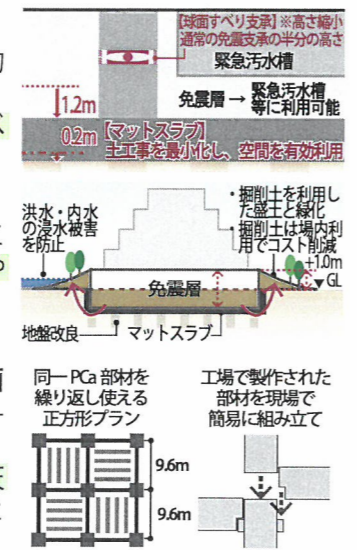
■ 長期間余震を繰り返す巨大地震の影響を考慮し、地震時の建物内加速度が小さく抑えられる低層の免震構造とします。
■ 免震装置は低層建物でも十分な免震効果を発揮する「球面すべり支承」を採用し、家具什器備品などの転倒を防ぎます。

2-4. 安全性・経済性を両立する合理的な基礎構造

■ 掘削土を敷地内の造成に利用し、1階床レベルを1m上げることにより掘削土量を減らしコストを削減するとともに、洪水や内水の浸水被害を最小限に留めます。
■ 地盤改良+マットスラブで杭工事をなくし、工事費を低減します。

2-5. フレキシビリティ・経済・機能性を両立する合理的な架構計画

■ 耐震壁やブレース等がなく、将来の変更に制約の少ない純ラーメンプレキャストコンクリート造(PCaPC造)とします。
■ 柱パツは9.6m×9.6mとし大きな執務空間を確保しながら、天井表しとすることで仕上げを簡略化し経済的・合理的な計画とします。また地震時の天井仕上材落下の心配がありません。



(3) 人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方

3 福島らしい優しいユニバーサルデザイン、県産材を利用したためくもりのある空間、郡山の気候特性に応じた環境モードをつくる建築・設備計画

3-1. やさしさ徹底したデザイン

■ 段差なくゆとりある滑りにくい床仕上げ、車椅子利用者が使いやすいカウンター、多目的トイレ、授乳室、明快なサイン等、徹底したユニバーサルデザインを行います。
■ 県産流通材を活用し、県民の手に触れる場所や見える場所、職員のリフレッシュスペースの内装仕上げ等に木材等の自然素材を使用し、温かみと居心地の良い内部空間をつくり出すことで、ウェルネスな環境とします。

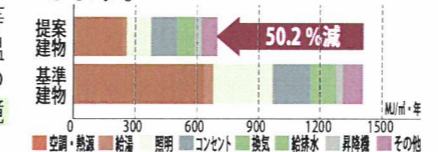
3-2. 自然素材・県産材に囲まれた空間

■ 県産流通材を活用し、県民の手に触れる場所や見える場所、職員のリフレッシュスペースの内装仕上げ等に木材等の自然素材を使用し、温かみと居心地の良い内部空間をつくり出すことで、ウェルネスな環境とします。

ローエネルギーモードへの切替は容易な「簡易スイッチ」を採用します。

3-3. 省エネルギー効果の高いデザインと設備機器を組合せ

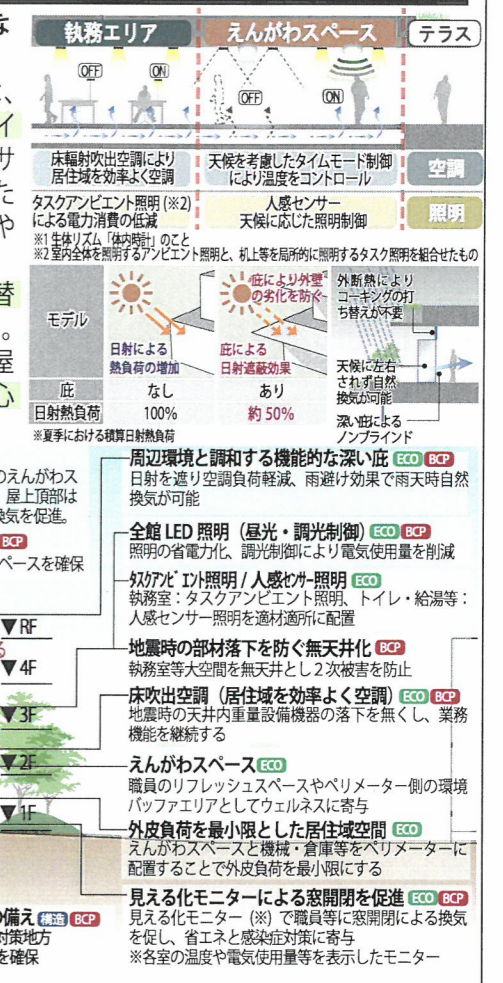
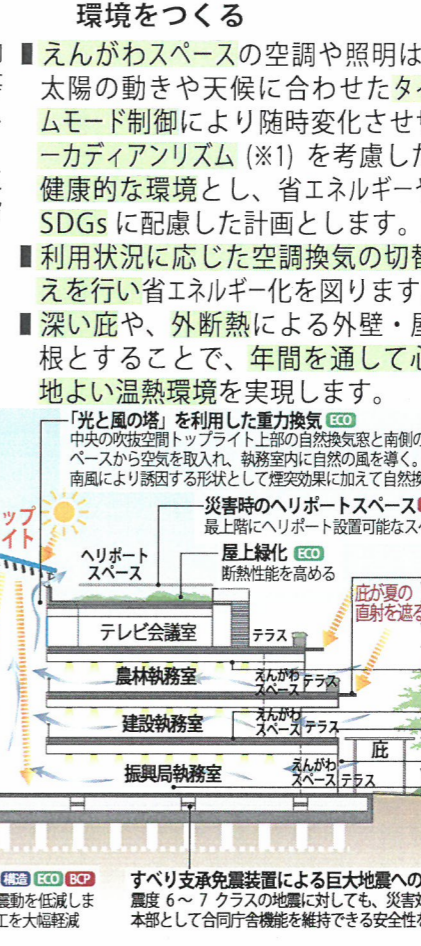
■ 深い庇やテラスによる日射負荷抑制、自然換気・高効率熱源機器等様々な省エネルギー手法を採用し光熱費を50.2%低減します。
■ 費用対効果をふまえた環境共生建築としCASBEE Sランクを目指します。



3-4. 各ゾーンに適したウェルネスな環境をつくる

■ えんがわスペースの空調や照明は、太陽の動きや天候に合わせたタイムモード制御により随時変化させサーカディアンリズム(※1)を考慮した健康的な環境とし、省エネルギーやSDGsに配慮した計画とします。
■ 利用状況に応じた空調換気の切替えを行い省エネルギー化を図ります。
■ 深い庇や、外断熱による外壁・屋根とすることで、年間を通して心地よい温熱環境を実現します。

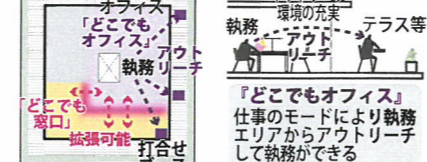
3-5. 重要設備の上階への設置



(4) 社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎のあり方

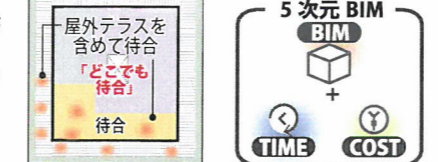
4 社会環境の変化、アフターコロナに柔軟に対応・更新でき、DXを推進するコミュニケーション型合同庁舎

4-1. 変化するこれからの県合同庁舎



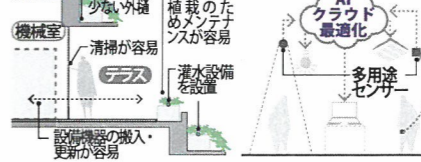
■ ICT活用による効率化により庁舎業務が、手続き業務から相談・コミュニケーションの場へ変化した場合、将来窓口エリアの拡張が容易な計画とします。
■ DX技術により、職員はどこでもだれとでもつながり、仕事のモードによって、場所を選べ気持ちの良い場所で働くことのできる「どこでもオフィス」とすることが可能です。

4-2. ICT導入による感染症対策



■ 待合案内導入時にスマートフォン等から得られる位置情報システムを追加して待合の密を回避します。
■ 利用状況に応じて換気窓を連動させ室内環境を制御し、外部テラスも含めて「どこでも待合」として有効活用します。
■ BIMを活用した建物運用(5次元BIM)によりメンテナンス業務を省力化し、コストの見える化を徹底します。

4-3. 更新し易い設備機器と配置



■ 段状テラスはメンテナンススペースを確保し管理を簡易にすることで、維持管理費の低減につながります。
■ クラウド上のデジタルツインを活用し熱源をAIによる自動運転とすることで、リアルタイムで問題を把握し素早く対応できる仕組みを検討します。

4-4. 汎用技術からZEB Readyを実現

種別	項目(抜粋)
外皮	庇効果による日射削減/Low-e 複層ガラス...
空調	空調機・外調機変容量/高効率室外機...
換気	三層ファンINV設置/極力単層ファンで選定...
照明	LED照明・タスクアンビエント/調光制御...
給湯	洗面器に自動水栓/配管の保温仕様UP...
E.V	VVVF制御/非接触ボタン

■ 郡山の気候特性を踏まえ、外皮熱負荷低減や自然エネルギーを積極的に活用し、維持管理及び費用対効果を検証します。
■ エネルギー消費分析(BEMS)を構築し、継続的な評価を可視化することで、毎年運用効率の改善を行い、運用でNearly ZEBを目指します。